

令和3年度



YURIKAGO 通信

《11月号》

R3.10.25 東京ゆりかご幼稚園



運動会 棚田を通る親子競技（年長）

運動会!

昨年に続き学年ごとに行われた運動会。大勢の保護者の皆様にあたたかく見守られ、子ども達も元気に体を動かし、競技や演技に生き生きと取り組んでいました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

今年度も、「体を動かすことの楽しさや充実感を味わう」「親子で一緒に競技を楽しむ」ことをテーマに取り組んできましたが、子ども達の満面の笑みがそれを表していたように感じます。子ども達にとって意味のある素敵な運動会となりました。皆様、ありがとうございました。

これから秋が深まりを見せ、日々の生活や活動がさらに充実してまいります。先週の遠足、今週予定のいもほり会、焼きいも会、年長おにぎりパーティー、保育参観など、様々な活動に対し、子ども達が主体的に、喜んで関わることが出来るよう見守ってまいります。

引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

年少



年中



年長



遠足!

今年度の遠足も、学年ごとに七国・相原の森を歩きました（年少は雨天延期）。森の空気をたっぷり吸って、ドングリをひろい、森の広場で遊び、深い自然の中でゆったりとした時間を過ごすことができました。園庭の「森の広場」でも森の遊びは十分に行えますが、時間をかけて森の奥まで入っていくと、普段気がつかない鳥の声、風の音に耳を澄ませ、生き物たちの息吹を感じることができます。秋から冬にかけてさらに森を歩きやすい時期になります。季節の変化を感じながら、普段の保育の中でも引き続き、「森歩き、森遊び」を楽しんでいきます。

年中



通称“原始人の道”を通して、“トトロのトンネル”を通して、“がらがらどんの橋”を何とか渡りきって、“コスモス広場”に到着！ ワクワク・ドキドキの遠足でした！

年長



“七国山の見晴台”～“ドッグラン”～“養鶏所”～七国峠の“お大日様”で休憩～相原中央公園の往復路。さすが年長さん、急な斜面も険しい根っこ道も難なくクリア。色々なドングリを見つけ、秋の自然を楽しみながら歩きました！

年長 稲刈り～脱穀～粃すり

大切に育ててきた稲が、台風を耐えしのぎ、金色に輝き、頭を垂れ、いよいよ稲刈りの時期を迎えました。初めは先生が手を持ち、次からは自分一人で鎌を持ち刈っていきました。収穫した稲は、昨年刈った稲わらを使って縛り、竹で作った馬にかけ、干した後、素手や、割り箸や、千歯扱きや、足踏み脱穀機を使って脱穀しました。今、もみすり・精米を楽しんでいます！そして、いよいよ10日に収穫祭「おにぎりパーティー」をおこないます！



鎌で稲を刈り、昨年収穫した稲わらで稲を縛り、竹で組んだ“馬”に干す「稲架(はさ)掛け」



稲わらは水につけると強いんだ！綱引きをしても切れないよ！2人でわらをよって縄になった！



一粒一粒の感触を確かめながら素手で脱穀、“千歯こき”で脱穀、“足踏み脱穀機”で脱穀



“唐箕(とうみ)”で稲わらのくずを取り除く。熊手を使ったわら掃除もおもしろい！すり鉢で“粃(もみ)すり”をする様子をスマートフォンで撮影しながらモニターに映すと、粃殻がとれていく様子がよくわかりました！次は小瓶と棒を使って精米をしていきます！

ドキュメンテーションを通してお伝えしたいこと

9月末より、「おうちえん」を使った各クラスのドキュメンテーション配信が始まりました。日々の生活や遊び・活動を通して、お子様の成長をお伝えできれば幸いです。また、保護者の皆様にご覧頂くことで、ご家庭でのお子様との会話もはずみ、幼稚園での様子や保育のねらいをより深くご理解頂けることと思います。

既に配信しましたドキュメンテーションの中にも、“**幼児期特有の学び**”の様子が様々に表現されています。「一体どういうことが“**幼児期の学び**”なの？」と思われるかもしれませんが、その一つの視点として、文部科学省の“**幼稚園教育要領**”に示されている“**幼児期に育てたい資質・能力の3つの柱**”があります。

幼児期に育てたい資質・能力の“3つの柱”

1. **知識及び技能の基礎**
小学校教育の先取りではなく、遊びや生活の中で、**気づくこと、分かること、できること**を示します。
2. **思考力、判断力、表現力の基礎**
遊びの中で「自分たちがやりたいこと」に向けて、気づいたことや出来るようになったことを生かしながら、**考えたり、試したり、工夫したりする力**を指します。
3. **学びに向かう力、人間性等**
「**心情**」(喜怒哀楽や感性、感じる心)、「**意欲**」(やりたいと思う気持ち)、「**態度**」(やりたいことに粘り強く取り組むこと、友だちと協力すること、挑戦していくことなど)

これらは“**生きる力の基礎**”となるもので、「小学校、中学校、高等学校を卒業する段階で身につけておきたい力とは何か」ということを見据えて幼児期に設定されています。

また、同じく幼稚園教育要領には、“**幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿**”が示され、5歳児後半頃までに育てて欲しい子どもの具体的な姿を明確にしています。

幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活の関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

私たちは、入園から卒園までを見通しながら、日々の生活や遊び・活動の中で、1人1人の成長に応じてこうした“姿”を見守っております。そして、これらを幼稚園教諭と小学校教諭が共有し、幼稚園と小学校との接続や指導がスムーズに行われる事を目指しています。これからも、ドキュメンテーションや保護者の皆様への連絡を通して、こうした成長の姿を、わかりやすくお伝えしていきたいと考えております。